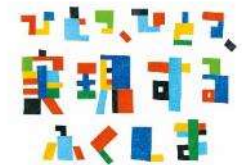


# 台風第13号による県内被害状況等について

---

令和6年1月23日  
福島県

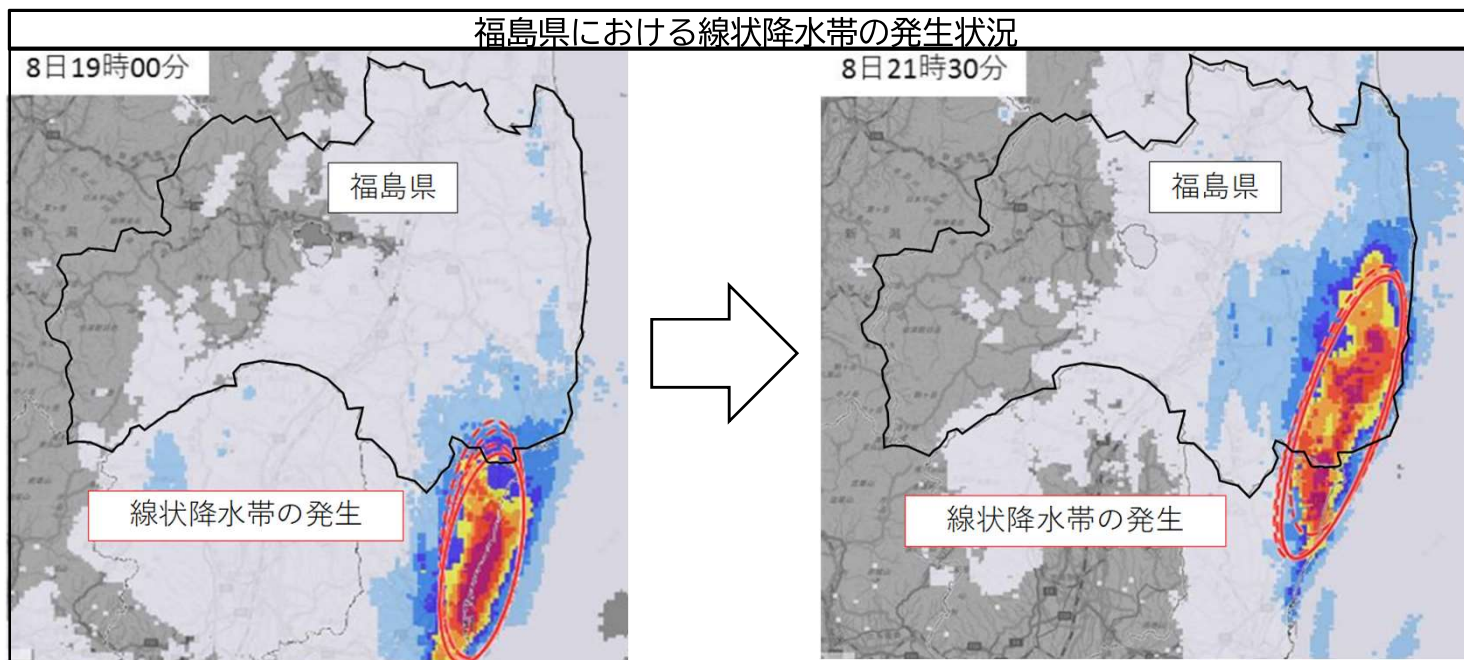


# 目次

1. 台風第13号の気象状況について
2. 台風第13号の被害概要
3. 公共土木施設の被害状況及び対応状況について
4. 災害査定結果について
- 5-1. 新川・宮川における浸水状況
- 5-2. 新川・宮川における浸水対策
6. 台風第13号豪雨における整備効果

# 1 台風第13号の気象状況について

福島県では、日本の南で発生した台風第13号及び台風第13号から変わった熱帯低気圧の影響により暖かく湿った空気が流れ込み、浜通りを中心に8日夜から9日朝にかけて断続的に激しい雨や非常に激しい雨が降り、局地的に猛烈な雨が降った。8日夜には**浜通りで本県初の線状降水帯が発生**し、いわき市山田では**最大1時間降水量が観測史上最大の81mm**を記録した。8日9時から9日12時までの総降水量は、いわき市山田194mm、いわき市平 189mm、南相馬市原町186mm、浪江172mm と、**9月の平年の月降水量に匹敵する大雨**となった。この大雨により土砂崩れや河川の氾濫等が発生し、多数の住家浸水等の被害が発生した。



## 2 台風第13号の被害概要

## 2 台風第13号の被害概要

### 被害概要（2023年10月20日時点）

人的被害：死者	1名（内いわき市1名）
軽傷者	5名（内いわき市5名）
合計	6名（内いわき市6名）

住宅被害：全壊	11棟（内いわき市11棟）
半壊	889棟（内いわき市873棟、南相馬市16棟）
一部破壊	845棟（内いわき市845棟）
合計	1,745棟（内いわき市1,729棟、南相馬市16棟）



### 3 公共土木施設等の被害状況及び対応状況について

#### 【河川施設の主な被害状況及び対応状況】

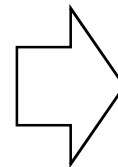
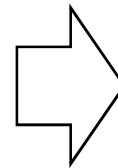
##### いわき市

- ・ 県管理河川の新川、蛭田川、渋川、山田川、天神川、宮川、江畑川、湯本川、常住川、鮫川の10河川で越水
- ・ 藤原川で護岸崩落（9/28に応急復旧完了）

##### 南相馬市

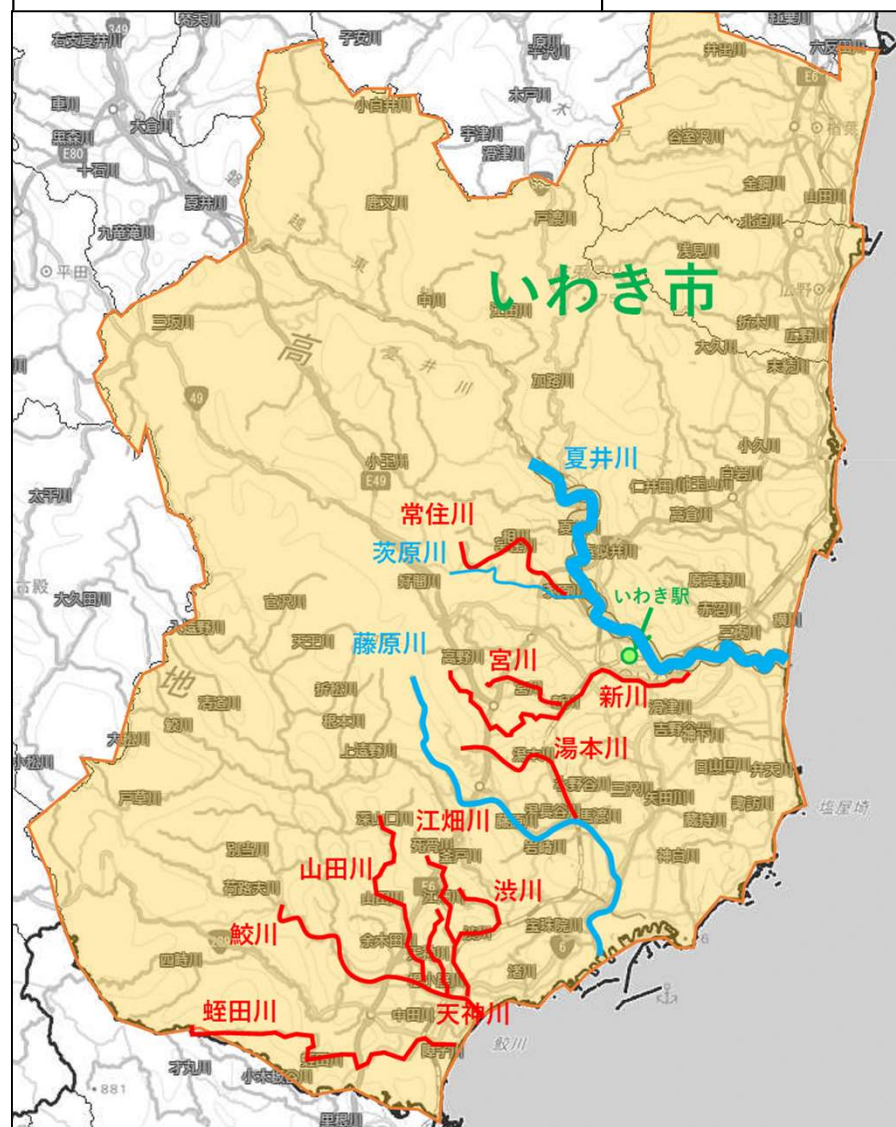
- ・ 小高川と前川の2河川で堤防決壊（9/15に応急復旧完了）

#### ■前川決壊箇所の復旧状況

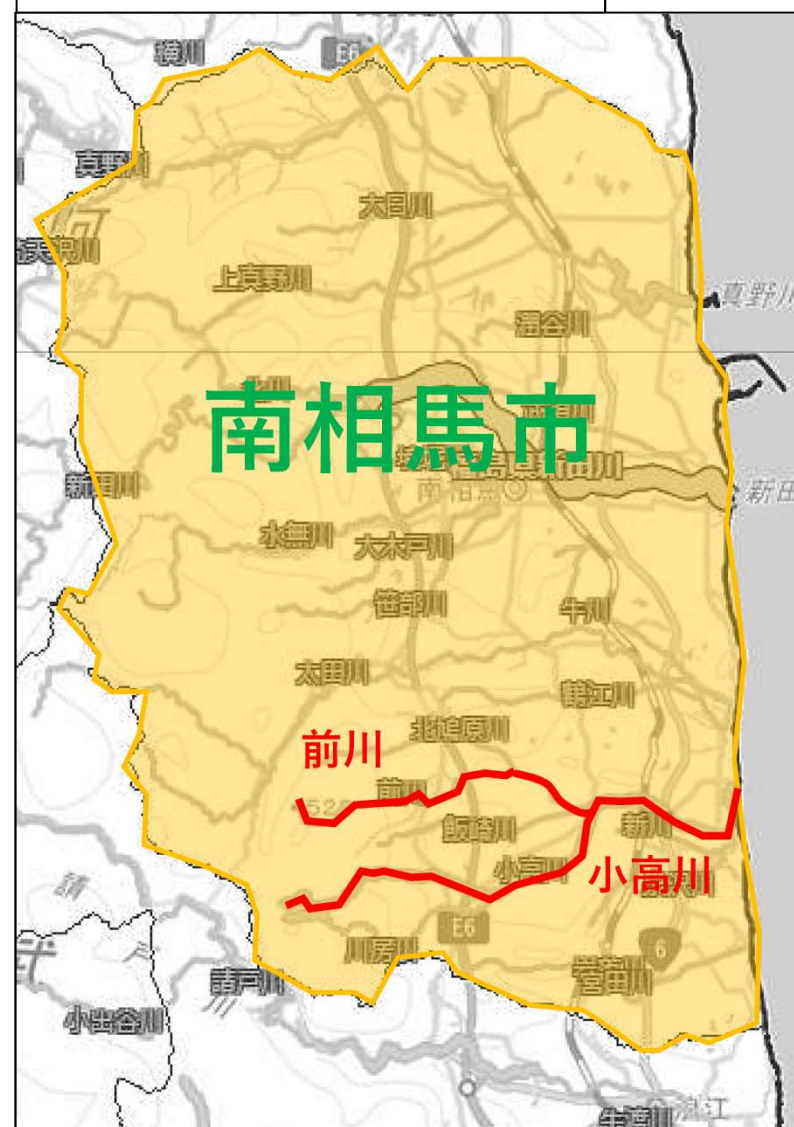


### 3 公共土木施設等の被害状況及び対応状況について

越水河川位置図（いわき市）



応急復旧河川位置図（南相馬市）



### 3 公共土木施設等の被害状況及び対応状況について





## 4 災害査定結果について

### 【令和5年災 査定結果】

期間：10月30日～11月17日に災害査定を実施

県：103件 約26億2千万円

市町村：45件 約2千万円

計：148件 累計：約26億4千万円

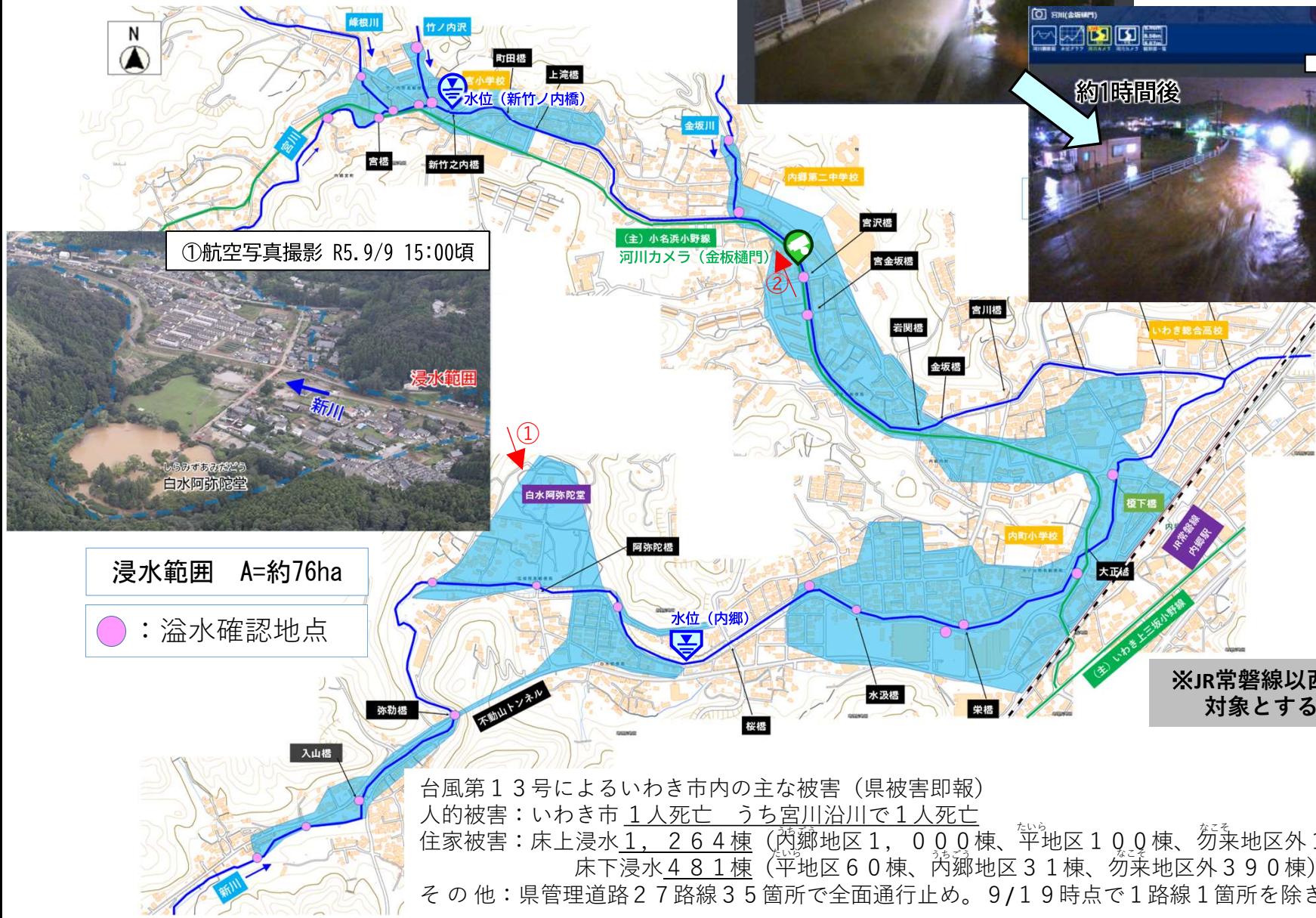
(第2次査定で実施したいわき市については、後査定後に決定額が確定するため、上記金額に含まれておりません)

今後、早期の復旧に向け、速やかに工事を進めてまいります。



# 5-1 新川・宮川における浸水状況

## 浸水状況



## 5-2 新川・宮川における浸水対策

台風第13号の影響で発生した線状降水帯に伴う豪雨により、甚大な被害が生じた新川・宮川流域において、被災原因を解明し、流域の特性や土地利用、内水・外水の影響を踏まえた効果的な浸水対策を検討するため、学識経験者や関係機関の職員で構成する「新川・宮川浸水対策検討会」を開催する。

### ○検討会の概要

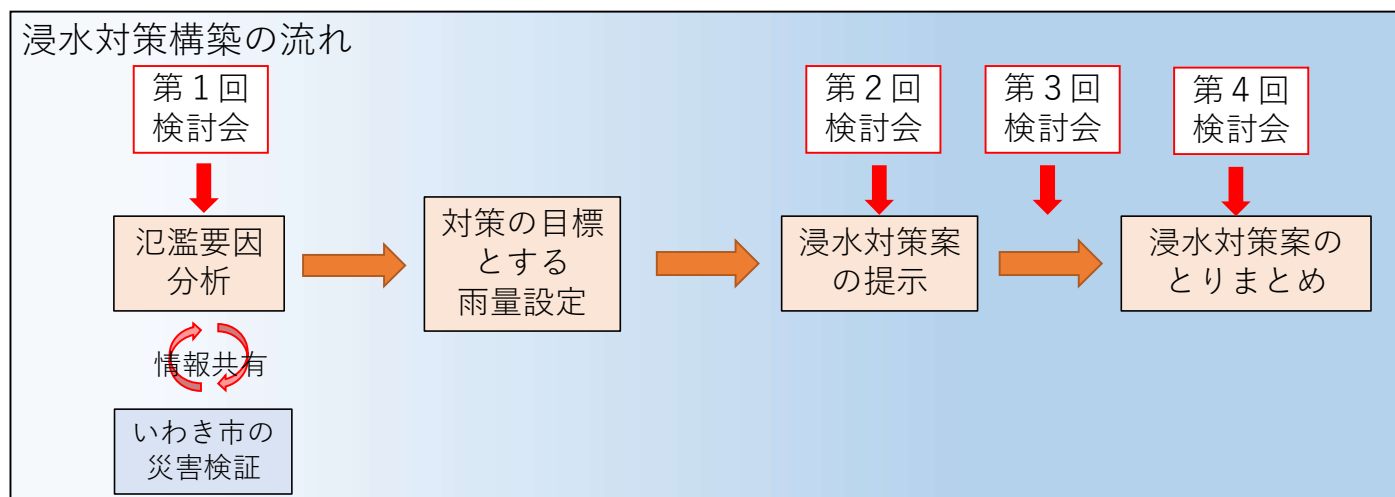
- ・令和5年12月から令和6年5月にかけて、全4回開催し、委員からの意見を踏まえながら、効果的な浸水対策をとりまとめる予定。
- ・第1回検討会は令和5年12月27日に開催し、浸水被害の概要や氾濫要因分析の中間報告を実施。

### ○検討会の委員

川越 清樹（福島大学 共生システム理工学類 教授）  
柴山 明寛（東北大学 災害科学国際研究所 准教授）  
菊地 卓郎（福島工業高等専門学校 都市システム工学科 教授）  
ほか 国土交通省、福島県、いわき市の関係職員



第1回検討会の開催状況



# 6 台風第13号豪雨における整備効果【湯本川調節池】

## 概要

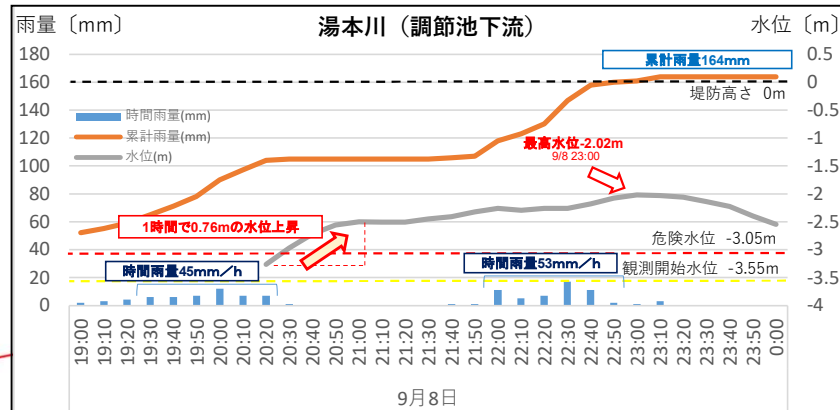
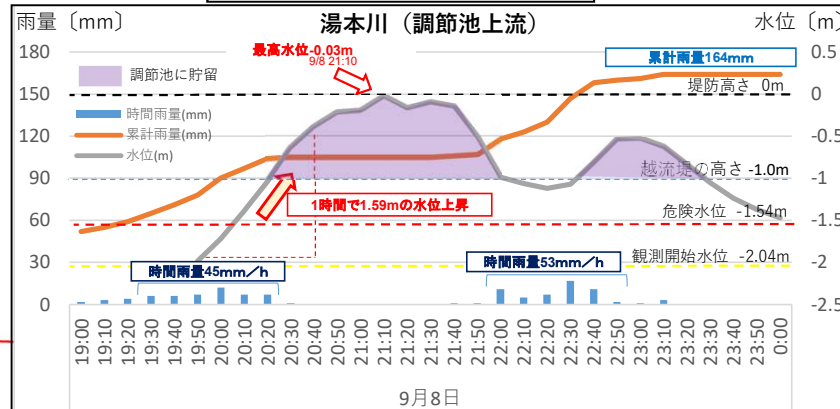
※本資料に記載の貯留量・浸水戸数等の速報値であり、詳細調査により変更となる可能性があります。

湯本川沿川は、炭鉱の町・温泉地である地域性から古くより市街化が進み、河岸まで住家が立ちならんでいた。そのため、洪水のたびに浸水被害が発生しており、特に平成5年や10年の集中豪雨では河川の氾濫による大規模な浸水被害となった。これを受け、福島県では平成14年より湯本川調節池の整備を含む河川改修事業に着手し、平成20年に河川改修が完了した。

## 位置図



## 調節池上下流の水位変化



## 調節池の貯留状況



今回の貯留量は約8万m<sup>3</sup>と推定



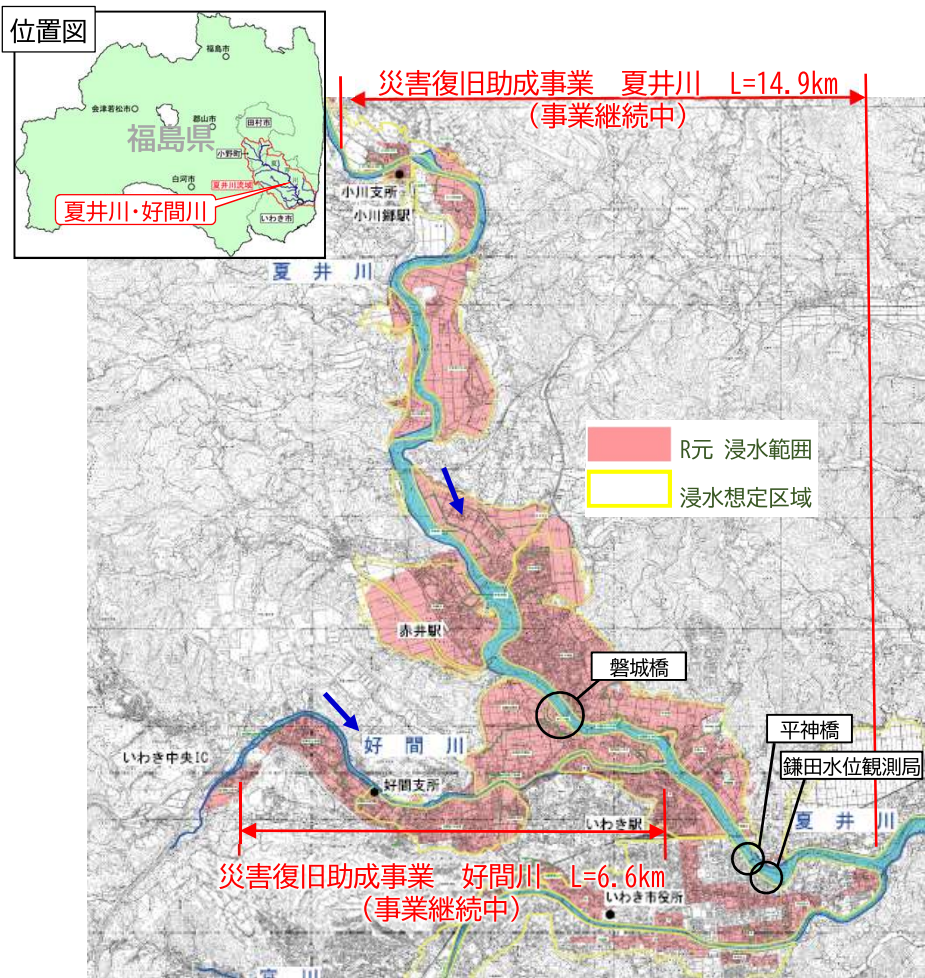
## 過去の主要洪水と今回豪雨での被害状況比較

発生年	原因	浸水面積	浸水戸数		24時間雨量	1時間最大雨量
			全体	うち床上		
H5.11.14	集中豪雨	11.96ha	585戸	397戸	250mm	65mm
H10.10.7	集中豪雨	7.00ha	81戸	26戸	153mm	32mm
R5.9.8	台風13号	調査中	40戸(0戸※) ※うち調節池下流	10戸(0戸※) ※うち調節池下流	164mm	53mm

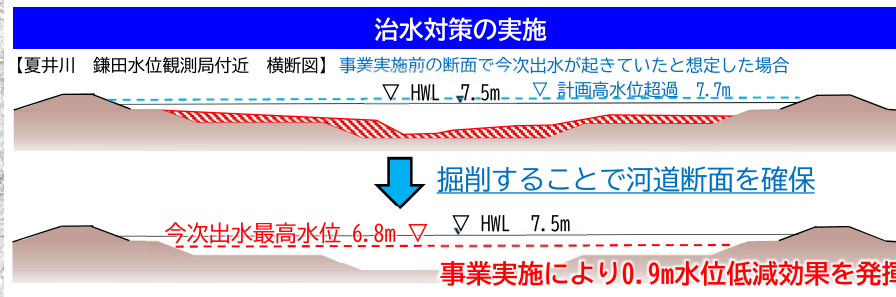
令和5年9月8日の台風第13号では、湯本川流域で164mm/日の降雨が記録されたが、湯本川調節池の貯留効果により、上流側の水位上昇に比べ、下流の水位上昇が低減され、今回出水において、調節池下流での洪水被害は発生しなかった。

# 6 台風第13号豪雨における整備効果【夏井川・好間川】

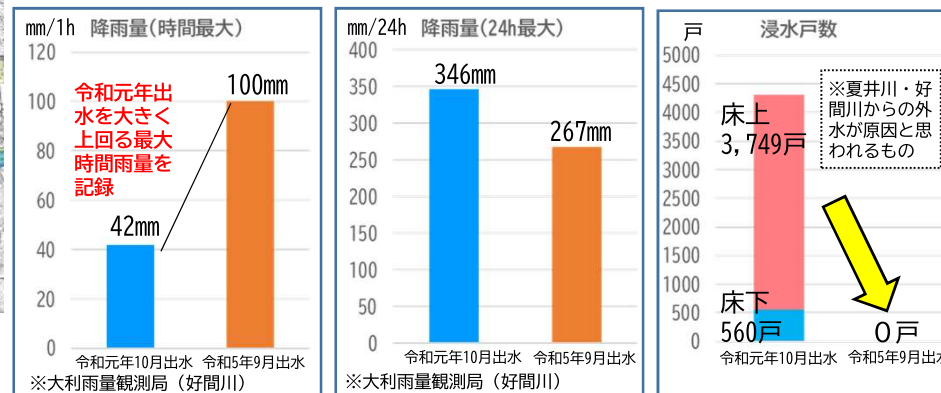
- 夏井川では、令和元年出水（令和元年東日本台風）で、外水氾濫により床上3,749戸、床下560戸の家屋浸水被害が発生した。
- 出水を踏まえ、令和元年度から災害復旧助成事業に着手し、令和5年度時点で事業継続中であるが、5ヶ年加速化予算と合わせ、緊急かつ集中的に河道掘削や築堤等の治水対策を実施している。
- 今次出水（令和5年9月8～9日）では、一定区間の河道掘削が完了していたことから、外水氾濫を回避することができた。



※上図浸水範囲は“いわき市台風第19号における災害対応検証委員会”報告書による



事業による効果【速報値】



# 6 台風第13号豪雨における整備効果【小泉川】 こいずみがわ

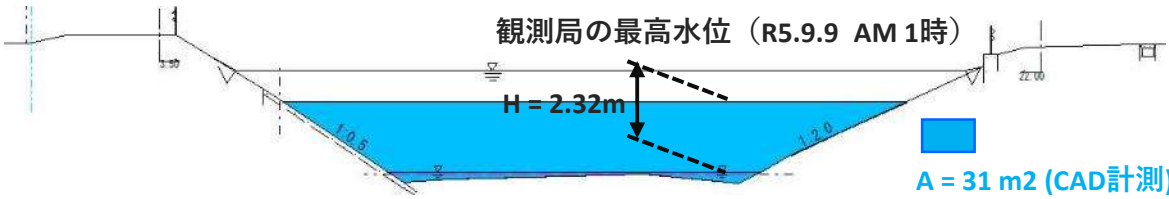
## 【観測局 小泉川（高池）】



河道掘削により、  
**約0.7m 水位が低下**した。

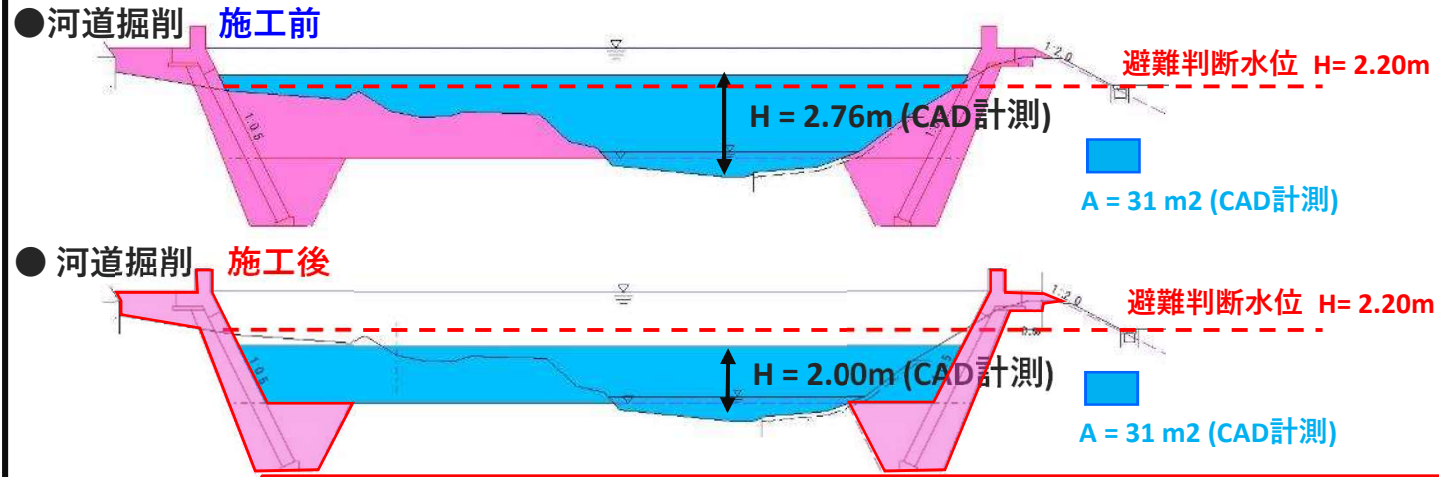
**水位が避難判断水位以下になる効果が発現**  
2.76 m → 2.00 m (< 避難判断水位 2.20 m)

### 【観測局の近傍測点 NO251】



観測局の最高水位から断面積を算定し、その面積を河道掘削した評価断面に流した場合の水位を計算した。

### 【評価断面 NO.215】



観測局名	高池
河川名	小泉川
最高水位 (R5.9.9 AM 1時)	2.32
計画高[m]	3.00
氾濫危険[m]	2.56
避難判断[m]	2.20
氾濫注意[m]	1.90
水防団待機[m]	1.40

**水位が避難判断水位以下になる効果を得た！ 2.76 m → 2.00 m (< 避難判断水位 2.20 m)**